



奥飛騨 桑崎山(1728.1m)、大鼠山
(1590m) (積雪期ピークハント／縦
走／剣・立山)

by
gekiyabu 

日程：

2012年04月21日(日帰り)

メンバー：

gekiyabu

天候：

晴れ

地図：



WEB SERVICES BY YAHOO! JAPAN

標高グラフ：

コースタイム：

7:03 除雪終点--8:07 山吹峠-(30分程度立ち話)-10:12 桑崎山 10:23--11:42 大鼠山
最高点--11:47 大鼠山三角点 12:12--13:17 1540m鞍部 13:36--14:30 市界尾根--
14:56 山吹峠 15:19--15:55除雪終点

コース状況／その他周辺情報：

- ・ 桑崎山は登山道無しで残雪期専用の山。一般的には山吹峠から往復
- ・ 登山ポストなし
- ・ 大規模林道は旧神岡側から除雪が始められるため、神岡側から入った方が峠まで車で
行ける確率が高い。峠まで開通するのは4月上旬頃

- ・大鼠山は登山道ありだが近いので往復
- ・危険箇所はなく残雪期の入門の山としてはいいかもしれない
- ・山頂は落葉樹林で覆われるが、枝の隙間から笠ヶ岳や黒部五郎岳、立山劔岳も見える
- ・大鼠山までの稜線は桑崎山直下を除いてなだらかな尾根でガスったらルート判断が難しい
- ・大鼠山山頂は三角点東のピークが最高峰だが三角点峰に標識あり

 写真：



旧上宝側除雪終点(標高900m)から歩き始める



除雪終点から桑崎山方向を見上げる。斜面に雪は見られないため山吹峠まで車道歩き



雪に覆われた大規模林道



林道をショートカットした谷



谷を登ると除雪されていた!



山吹峠。旧神岡側から除雪されていた



山吹峠東側から尾根に取り付く



稜線に乗る。まだ雪は少ないが藪も少ない



積雪は10~20cm程度

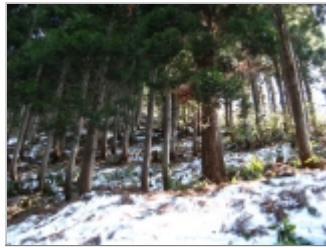


土手のような盛り上がりを歩く



1300mで傾斜が立ちあがる直前。この先は植林

稜線上に笹藪が出ている場所は北斜面を巻く



雪の残る植林帯北斜面を登る。尾根上は笹藪が出ている

1297m標高点へ登る



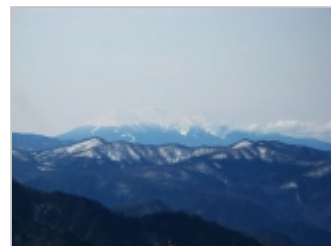
急傾斜をグイグイ登る



傾斜が緩む1430m肩で藪が切れ尾根に復帰



標高1400m付近から登ってきた尾根を振り返る



木曽御嶽



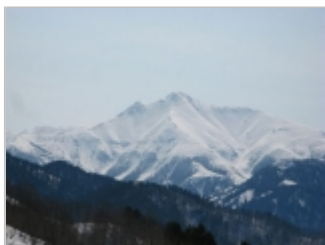
標高1430m付近



標高1450m付近。明るく気持ちのいい尾根



乗鞍岳



笠ヶ岳



標高1620m付近。山頂が見えてきた





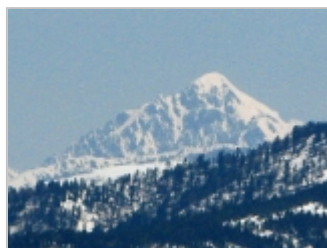
桑崎山山頂直下



桑崎山山頂



桑崎山から見た黒部五郎岳



桑崎山から見た剣岳



大鼠山向けて下り始める



奥の黒いピークが大鼠山



カモシカか熊の足跡



1540m鞍部



広くなだらかな稜線が続く



熊棚



熊が木登りした爪痕。小さく目立たない



真っ白な薬師岳



槍ヶ岳



1570m峰から下る



1510m鞍部



1510m鞍部から西に巻く



林道に出た。スノーモービルのトレースあり



林道が超える1510m鞍部



大鼠山を目指す。広い尾根が続く



スノーモービルのトレースが続く



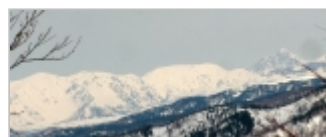
大鼠山最高峰



三角点峰へ向かう



大鼠山三角点峰。山頂標識はこちらにある



大鼠山付近から見た剣岳、大日岳



帰路は1540m鞍部から桑崎山西斜面を巻く



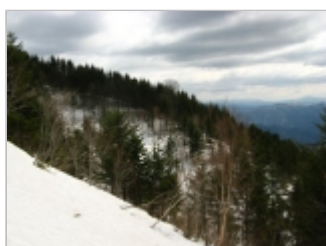
唐松植林帯が続く



1560m直下を巻く



1563m峰を超える



この尾根のさらに向こうが市界尾根



トラバースが続く



ここもトラバース



往路の足跡に出た。新たにスノーシューの跡が追加されていた



標高1400m以下では稜線南側の開けた斜面を下った。往路の植林帯より歩きやすい



1290m鞍部で短距離の藪を突っ切って尾根に戻る



山吹峠に戻る



帰日も林道をショートカット



除雪が進んでいた



出発地は除雪できれいさっぱり雪が消えていた

感想／記録 : (by gekiyabu)

概要

予想外に大規模林道が除雪されておらず、旧上宝側除雪終点から山吹峠まで歩いて桑崎山に登り、大鼠山を往復して再び除雪終点まで歩いて戻った。山吹峠からしばし残雪が少なかったが藪は薄く問題なし。1297m標高点より先で雪が増えて藪が消える。山頂直下で先行トレースの主とすれ違い桑崎山山頂へ。落葉樹林のためすっきりした展望ではないが笠ヶ岳や黒部五郎岳などが見える。大鼠山までの稜線は桑崎山直下を除いてなだらかな尾根でガスったらルートが難しい。雪が緩んで難儀する。大鼠山山頂は三角点東のピークが最高峰だが三角点峰に標識あり。帰路は桑崎山西斜面を巻いたが雪が緩んで大苦戦し、山頂を越えた方が早かったかもしれない。山吹峠に出て林道を下ったら除雪作業が進んでおり、明日には全線開通しそうな状況だった。

桑崎山は以前無雪期に登ろうとしてネットで事前調査したら無雪期の記録がゼロだったため、雪の残る時期を狙っていた。残雪期本番だが週末は天気が下り坂で2日使えないこと、今週は仕事で腰を痛めてしまい本格的な山にアタックするのは不安があったこともあって比較的短時間で登れそうな桑崎山を目指すことに。この時期であれば山吹峠まで車道は開通していると予想した。

安房トンネルを抜けて旧上宝村から大規模林道に入ると通行止めの看板が。予想に反してまだ除雪していないらしい。どこまで入れるかと思ったら標高900m地点の橋までであった。反対の旧神岡側からのアプローチも考えたがこちらは北斜面でこちらよりも残雪は多いと考えられ、常識的に雪が少ない上宝側から除雪が進むだろうし、除雪されていなければ道路が雪に覆われた区間は上宝側より長いと予想され、このまま旧上宝村除雪終点から歩くことに。見上げる桑崎山南斜面は全く雪は見られず上部は藪漕ぎ確実なので、山吹峠まで林道を歩いて山吹峠から取り付くことに。

除雪終点からしばし林道は北斜面なので林道は雪に覆われたまま。ヘアピンカーブで南斜面に移ってから雪が消えるだろうからそれまでの我慢。ヘアピンカーブ手前で上の車道まで雪がつながった場所があり、雪を伝ってショートカット、車道に這い上がると自然に雪が消えたのではなく明らかに除雪されていた。予想に反して旧神岡側から除雪されていたのであった。残念。1時間以上余分な歩きをしてしまった。山吹峠には先客らしい富山ナンバー車が1台。これを見て余計に疲れた。

切通しの南側から尾根に上る。先行者も同じ選択で足跡が残っていた。雪は締まりが無く5,6cm沈むが先行者のトレースがあるので楽できてワカンの必要はない。稜線に上ると雪が消えて地面が出ている部分が多いが藪は薄く無雪期でも問題なし。尾根は広いし数か所で屈曲するので進路に注意が必要だが落葉樹林なので葉が落ちた時期なら視界があるので問題なし。複数種類の目印も点々と残されており、訪問者の多さがうかがえる。

1297m標高点を過ぎて急斜面帯にかかると尾根上は笹藪、北斜面は杉の植林に変わる。尾根上は藪漕ぎなので必然的に北斜面の杉植林に登るが先行者の足跡がない。まさか藪漕ぎ？ 結構な傾斜だが凍っているわけではなくアイゼンは不要で登り続ける。花粉がまだ残っているようで目が少々かゆい。

標高1430mで傾斜が緩むと同時に尾根上にも雪が現れて笹藪が消え、進路を尾根上に戻すと先人の足跡と合流。この後は山頂まで明るい落葉樹林や木が無い開けた尾根登りが続き、展望が開ける個所が多い。地面が見える場所も無くなり藪は皆無。南方には木曾御嶽、乗鞍岳が。ここまで来ると乗鞍が意外に遠い。標高が上がると笠ヶ岳の姿も見える。

山頂直下で先行者の男性とすれ違った。この人のおかげでここまでラッセル皆無で楽ができた。快晴の中、30分ほど立ち話。桑崎山山頂と周辺には男性の足跡が残っており、樹林の隙間から北アルプスの山が見通せる場所を探しまわった様子が想像された。山頂はブナに囲まれ枯れ枝の隙間から周囲の展望があるがすっきりではない。木が無ければ黒部五郎岳や笠ヶ岳が目の前にドカーンと聳えて見えるだろう。

男性との立ち話が休憩になったため、山頂での滞在時間は短めで切り替えて大鼠山に向かうことにする。当初計画では山吹峠から旧神岡側に少し下ったところから大鼠山付近に至る林道で稜線に上って大鼠山と桑崎山を往復する予定だったが、計画が狂ってしまい桑崎山だけで帰ろうかとも考えたが、天気は最高だし時間はたっぷりあるので大鼠山まで足を延ばすことに。腰痛が心配の種。

桑崎山から顕著な尾根は北東に延びているが、大鼠山への尾根は北に下る目立たない尾根だ。磁石で方位を定めて北に下っていくと尾根が明瞭化してくる。ブナが中心で明るく残雪は豊富。ただし気温が上がって雪が緩み、ワカンでも常時5～10cm程度沈むので足が重い。尾根が広がって鞍部に立つと地形図で読めるように地形がなだらかな一帯に入り、ピークを避けて下手に巻くとルート判断を誤る可能性があり、1568m峰は僅かに東を巻いたがその先でだだっ広い場所に出て悩む場所だったが、左手に進路を取って正しい尾根に乗った。

1570m峰を越えて進路は北東に曲がり、1510m鞍部に到着。この先の1559m峰は左(西)から巻くことにして斜面を左にトラバース。雪に覆われた林道が既に下部に見えている。林道が接近したところで乗り移るとスノーモービルのトレースあり。圧雪されて歩きやすくなるかと思ったら踏み抜きが多いままでがっかりする。

1510m鞍部は平坦で積雪が多く、林道がどこにあるのか判別不能。スノーモービルはこのまま林道を進んだわけではなく大鼠山方面にいくつものトレースが残っていたので、あちこち走り回ったようだ。その一つを選んで最初は緩やかに、のちにやや傾斜のある浅い谷を登る。ここは今までの明るいブナ林ではなく暗いシラビソ樹林であった。

傾斜が緩むと明るい落葉樹林に代わり、大鼠山最高点峰に到着。山頂標識が無いか探してみたが赤ペイントはあったが標識は無し。地形図では三角点のある西峰に山名が書かれているので一般的にはそちらを山頂としているようだ。緩やかに下って僅かに登り返すと大鼠山三角点峰到着。山頂標識があった。布の物もあって日付は10月初旬、無雪期であった。大鼠山は登山道があるとは最初から考えていなかったのも林道から藪漕ぎで登ったのかと思ったが、下山してからネットで検索すると夏道があったのだった。干支の山なので整備したのだろうか？ ここまで雪質が悪く疲労がたまり、三角点峰でしばし休憩。

帰りは林道経由で大規模林道に下り、標高差150mを登って山吹峠に至るルートを考えましたが、林道は雪に埋もれており、雪質は稜線と変わらないので楽できそうになり。また、歩行距離も長くなる。だったら桑崎山まで戻る方がいいだろう。ただ、登り返すのは面倒なので桑崎山西斜面を巻いてしまおう。雪が付いて藪が埋もれた今の時期なら可能な技だ。

桑崎山手前の1540m鞍部から斜面に入る。ずっと唐松植林と残雪が続く藪はないのは助かるが、雪が思いっきり緩んでズボズボ潜り、尾根筋を歩くよりタチが悪い。トラバースできない急斜面は微妙に高さを調整して通過したのでアップダウンはあったが、市界尾根に出るまで約1時間。たぶん山頂経由なら40分程度だっただろうから、結果として巻いて得をしたとは思えなかった。今日の中でこのトラバースが一番疲れた。

市界尾根に出ればもう下るだけ。雪の上でワカンを半分滑らせながら下れる傾斜なので至って楽だ。雪面には往路では無かったスノーシューが加わっていて、本日の訪問者は私を含めて3人だったようだ。往路で杉植林地の急斜面を登った個所では、足跡は尾根南側の樹林が少ない開けた浅い谷を下っており、それが一般的らしいし実際に気持ち良く歩ける。鞍部で僅かに藪を突っ切れれば稜線に復帰。次の1200m峰でスノーシューは市境稜線を離れ南に下っていたが、私と同じく旧上宝側から登ったのか?と思ったら、私が峠に向けて西に下っていると登り返す姿が見えたので間違いだったようだ。辿りついた山吹峠には車は無かったし、その人は峠に戻ってこなかったのだ、峠より旧神岡側から登り始めたらしかった。

峠でひっくり返って休憩後、舗装された林道を下る。登りと同じ個所で林道をショートカット、雪の上を10分強歩いたら林道が除雪されているではないか! 除雪は旧上宝側からも進んでいたのだった。この分だったら明日にでも完全開通すると思う。なんて間の悪いとこに来てしまったのだ! ちゃんと事前調査しておけばよかったと後悔。でも天候は良く残雪の山を満喫できたので満足だ。